

おしらせ

「昭洋による三宅島海域への海底地震計設置について」

海洋科学技術センター（理事長 平野拓也）は、海上保安庁及び東京大学地震研究所と共同で、6月26日以来地震活動の継続している三宅島から神津島にかけての海域にて、自己浮上式海底地震計を用いた機動地震観測を行います。

今回の海底地震観測は、海上保安庁の海底状況調査と平行して実施するものであり、火山噴火予知連絡委員会や地震予知連絡委員会等の関係諸機関への地震観測データの提供だけでなく、高密度観測により、度々群発地震の発生する当該海域で生じている地殻応力の解放の過程を把握することを目的としています。

自己浮上式海底地震計は、7月7日から9日の海上保安庁の測量船「昭洋」の航海において、海上保安庁所有分8台、東京大学地震研究所所有分1台および海洋科学技術センター所有分5台（広帯域地震計）の合計14台を設置します（[図1](#)）。その後、1～2ヶ月の観測期間を経て地震計回収を行います。

なお、本日7月3日、海上保安庁よりプレス発表が行われました。また、7月2日に東京大学地震研究所所有分が6台設置されており、今後の地震活動の推移に合わせて、今回さらに14台が設置されることとなります。

問合せ先：海洋科学技術センター
深海研究部 三ヶ田
電話 0468-67-3983
総務部普及・広報課 他谷
電話 0468-67-3806

機動地震観測：定点観測ではなく、維持的に観測点を設けデータを取得する観測方法

広帯域地震計：周波数帯域が0.05Hz～数10Hzと通常の地震計より低周波まで観測可能

[参考1](#)：昭洋 “海上保安庁水路部 <http://www.jhd.go.jp/cue/MSA/msa.html>”

[参考2](#)：海上保安庁 プレス発表文（7月3日発表）

[「三宅島西方海域における海底状況調査」概念図](#)

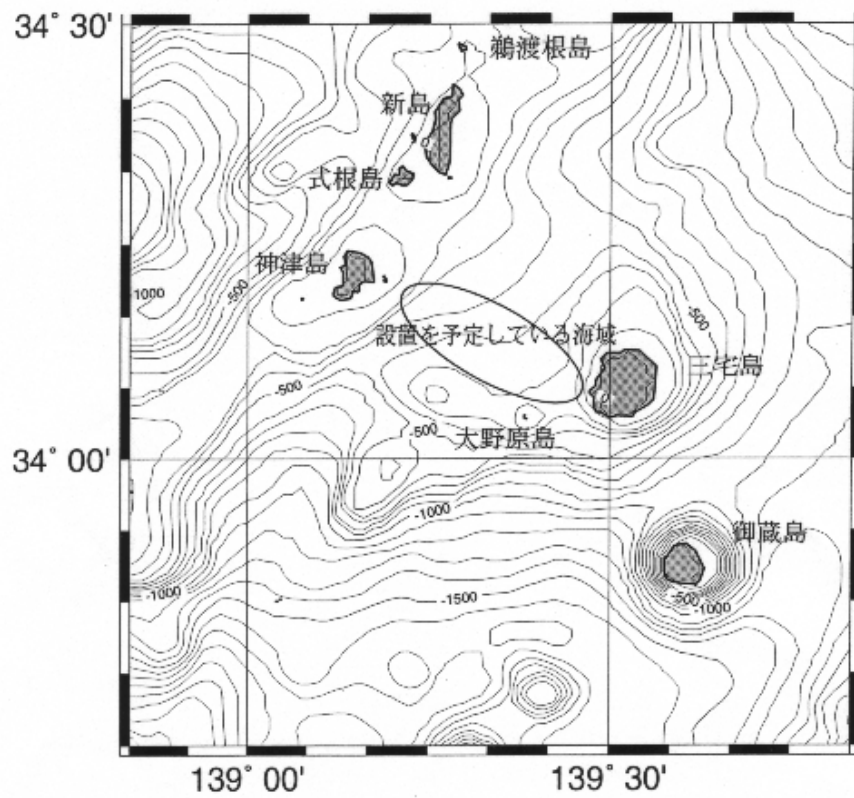
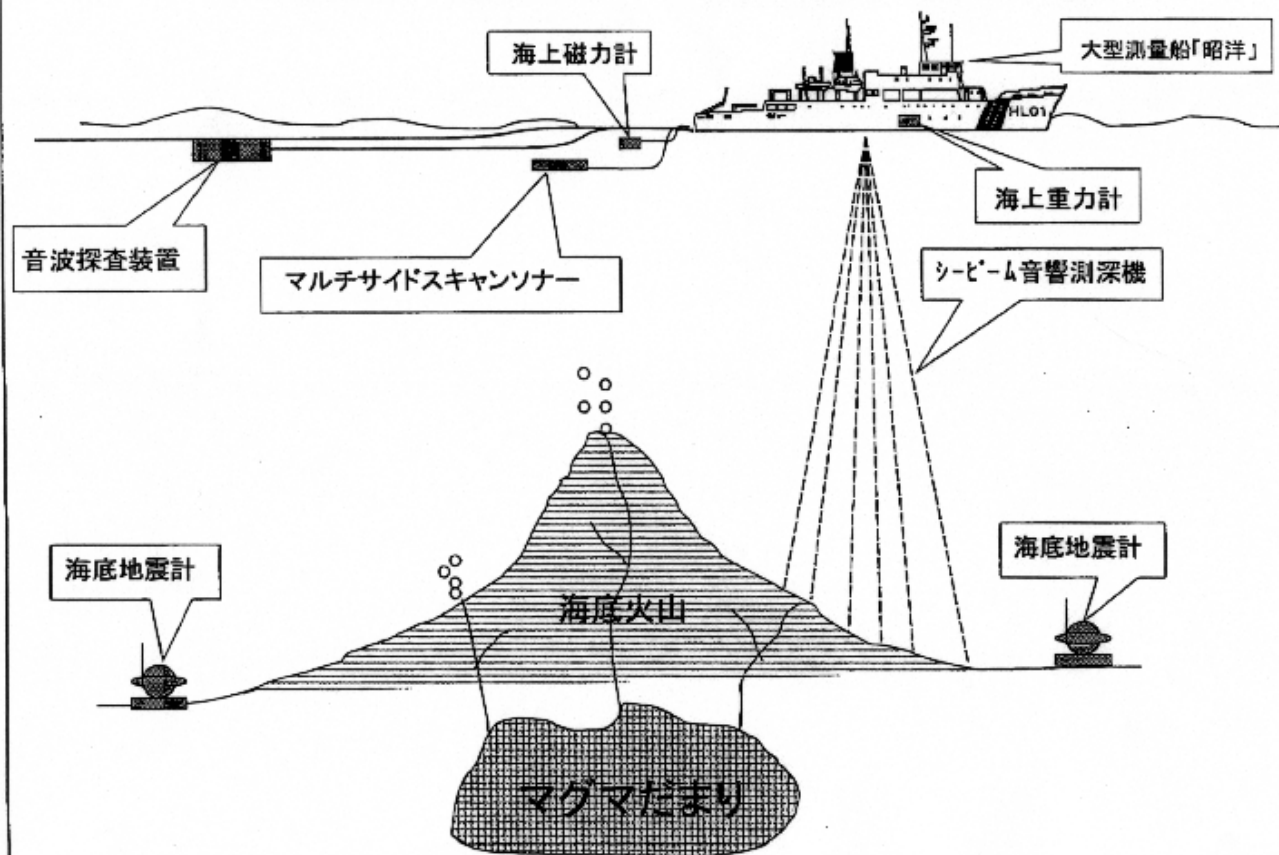


図1 三宅島・神津島付近の地震計設置予定海域

「三宅島西方海域における海底状況調査」概念図



昭 洋



- 総トン数: 3, 128トン
- 主要寸法 (全長×巾×深): 98.0×15.2×7.8m
- 速力: 約17ノット(時速約31km)
- 航続距離: 約12,000海里(約2万2千km)
- 主要観測機器:
 - 複合測位装置
 - ナローマルチビーム測深機 (シービーム)
 - 深海用曳航式サイドスキャンソナー(愛称: ANKOUアンコウ)
 - 深海用音波探査装置120ch
 - 表層探査装置
 - 海上磁力計
 - 海上重力計
 - 炭酸ガス計
 - 航用波浪計
 - CTD(塩分、水温、深度自動測定器)
 - ADCP(超音波流速計)

問い合わせ先
海上保安庁水路部
企画課地震調査官
加藤 幸弘
Tel:03-3541-3813
Fax:03-3541-4397

平成12年7月3日
海 上 保 安 庁

三宅島西方海域における海底状況調査

海上保安庁水路部では、平成12年6月27日に起きた「三宅島西方海域」における海底噴火活動後の海底状況調査を、7月4日から7月18日の間、測量船「昭洋」により実施します。調査内容は以下のとおりです。

- 1 シービームによる海底地形調査
- 2 マルチサイドスキャンソナーによる詳細な海底画像の取得
- 3 震源域を特定するための海底地震計の設置
- 4 海底下の構造を把握するための地磁気、重力観測
- 5 海底地質構造を把握するための音波探査

なお、海底地震計による観測は、東京大学地震研究所と海洋科学技術センターとの共同で行います。